

取り組み② 「4R」を実践して、家庭でのゴミを減らしましょう

- Refuse(リフューズ)は、不要なものを買わないなど、ごみの発生自体を抑制することです。
- Reduce(リデュース)は、使用済みになったものが、なるべくごみとして廃棄されることが少なくなるように、ものを製造・加工・販売することです。
- Reuse(リユース)は、使用済みになっても、その中でもう一度使えるものはごみとして廃棄しないで再使用することです。
- Recycle(リサイクル)は、再使用ができずにはまたは再使用された後に廃棄されたものでも、再生資源として再生利用することです。

リサイクル推奨店

現在市では、空き缶やペットボトルなどの資源物を店頭回収している市内大型スーパーを「行田市リサイクル推奨店」として認定しています。買い物の際は、この認定ステッカーが貼られている認定店舗の店頭回収をご活用ください。

▶問い合わせ 環境課環境政策担当 ☎556-9530



埼玉県内市町村職員採用合同説明会を開催します

彩の国さいたまづくり広域連合では、より多くの方に市町村職員採用試験などを受験してもらうことを目的に「埼玉県内市町村職員採用合同説明会」を開催します。

市町村ごとに設置するブースで、市町村の特色や仕事の内容、職員の募集内容、勤務条件など、気になる市町村の人事担当者から直接話を聞くことができますので、気軽にお立ち寄りください。なお、本市は専用ブースを設置する予定です。

- ▶日時 7月12日(水)午後1時～6時(入場は午後5時まで)
- ▶場所 さいたまスーパーアリーナ(さいたま市中央区新都心8)
- ▶入場料 無料
- ▶その他 予約不要、入退場自由
- ▶問い合わせ 同広域連合人材開発部市町村職員担当 ☎048-664-6681

観光PRラッピングトラックが走り出します

市内事業者の大和輸送株式会社から自社のトラックを活用した本市の観光PRを行いたいとの申し出をいただき、このたび2台の「観光PRラッピングトラック」が完成したことから、5月10日に披露式を開催しました。



全国で走行する予定の観光PRラッピングトラック

トラックのデザインは、1台が古代蓮の里や市内観光スポットの他さきたま火祭りなどの様子を描いたもの、もう1台が日本遺産認定を受けた「足袋蔵のまち行田」をPRする内容を描いたものとなっています。今後2台のトラックは、全国で走行するとのことですので、本市の魅力を広く発信していただく機会になると期待しています。

▶問い合わせ 商工観光課観光担当(内線382)

税務職員(国家公務員)を募集します

▶受験資格

- ①平成29年4月1日において高等学校または中等教育学校を卒業した日の翌日から起算して3年を経過していない者および平成30年3月までに高等学校または中等教育学校卒業見込みの者
- ②人事院が①に掲げる者に準ずると認める者

▶試験の程度 高等学校卒業程度

▶申し込み

【インターネット】6月19日(月)午前9時から28日(水)までに国家公務員採用試験申込専用アドレス(<http://www.jinji-shiken.go.jp/juken.html>)から申請
 【郵送または持参】第1次試験地を所轄する国税局に問い合わせ
 ※インターネットで申し込みができない場合に限りです。

▶試験日

【第1次試験】9月3日(日)
 【第2次試験】10月11日(水)～20日(金)のいずれか指定する日時

▶問い合わせ

【インターネット申し込みについて】人事院人材局試験課 ☎03-3581-5311(内線2333)(午前9時30分～午後5時)
 【上記以外について】関東信越国税局人事第二課試験係 ☎048-600-3111(内線2097)(午前8時30分～午後5時)
 ※いずれも土・日曜日、祝日などの休日を除く

6月5日は環境の日です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。今、地球は二酸化炭素などの温室効果ガスの放出により温暖化が進んでいます。地球温暖化を抑制するには、化石燃料を中心としたエネルギーの無駄遣いを無くすことが必要です。

地球温暖化問題が叫ばれて久しいですが、日常生活を送っていて温暖化の影響を感じることはあまり多くはありません。しかし、100年の間に気温・水温ともに1度以上上昇しています。

では、実際にどのくらい気温が高くなっているのかを見てみましょう。

真夏日(最高気温が30度以上)の日数(熊谷地方気象台発表)

1976年	29日
1986年	42日
1996年	54日
2006年	53日
2016年	64日



40年前と比較すると、真夏日の日数が大幅に増加しています。気温の上昇はゲリラ豪雨の増加などの異常気象の原因といわれています。この機会に改めて環境のことを考え、次の取り組みのうち、できることから始めてみましょう。

取り組み① 毎日の生活を見直しましょう

まずはここからやってみよう(難易度:易)

取り組み	二酸化炭素削減量(1カ月)
部屋を出る時は照明のスイッチを切る(1日1時間照明の点灯時間を短くした場合)	0.7キログラム
冷蔵庫の扉は開閉を少なくし、開けている時間を短くする	0.5キログラム
炎は鍋底からはみ出さないように調整する	0.5キログラム
シャワーの出しっ放しをやめて、小まめに止める	2.7キログラム
風呂の残り湯を洗濯で使う	0.5キログラム

少しがんばってやってみよう(難易度:中)

取り組み	二酸化炭素削減量(1カ月)
1日1時間冷房運転時間を短くする	1.7キログラム
冷蔵庫は外の気温に合わせ、小まめに設定温度を調節する	1.7キログラム
ヘッドライヤーの使用を短くする(1日5分短くした場合)	1.0キログラム
部屋を片付けてから掃除機をかける	0.2キログラム
野菜は旬のものを食べるようにする	3.3キログラム

チャレンジしてみよう(難易度:難)

取り組み	二酸化炭素削減量(1カ月)
エアコンのフィルターの目詰まりを月に1回掃除する	1.1キログラム
マイバッグを持参し、レジ袋をもらわないようにする	1.2キログラム